

放置自転車の有効利用

チャリ再生法研究会

はじめに

- 放置自転車とは何か？



警告から三カ月以上経過しても
持ち主が現れなかったもの

年間400台以上

2010年11月29日 回収台数222台



ちやり再生法研究会

2010年

全学サークル「ちやり再生法研究会」発足

→ 以前はNPO法人の活動の一環として学外で
2000年から活動

活動内容

- ・ 放置自転車の修理
希望者への譲渡
- ・ 自転車の修理依頼の受け付け

年間 20台～40台





サークル部室棟付近
69台

薬学部
30台

水産学部棟
4台

環境棟付近
72台

教育学部棟付近
83台

工学部付近
66台

334台



国立大学法人

長崎大学

NAGASAKI UNIVERSITY

自転車のリサイクルシステム



1 , 放置自転車ができる原因

2 , 解決のためのシステムと運営

3 , 拠点となる場所

1, 放置自転車ができる原因

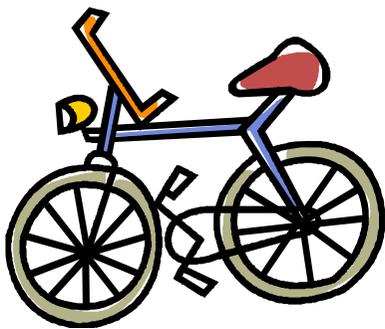
学生を取り巻く環境

長崎の特徴

1-1 学生を取り巻く環境



捨て方が
わからない



修理できない

1-2 長崎の特徴

自転車の盗難

主要な~~交~~通手段

一時的な交通手段

- ・ **卒業、バイクの免許取得**

- ・ **修理の仕方がわからない**

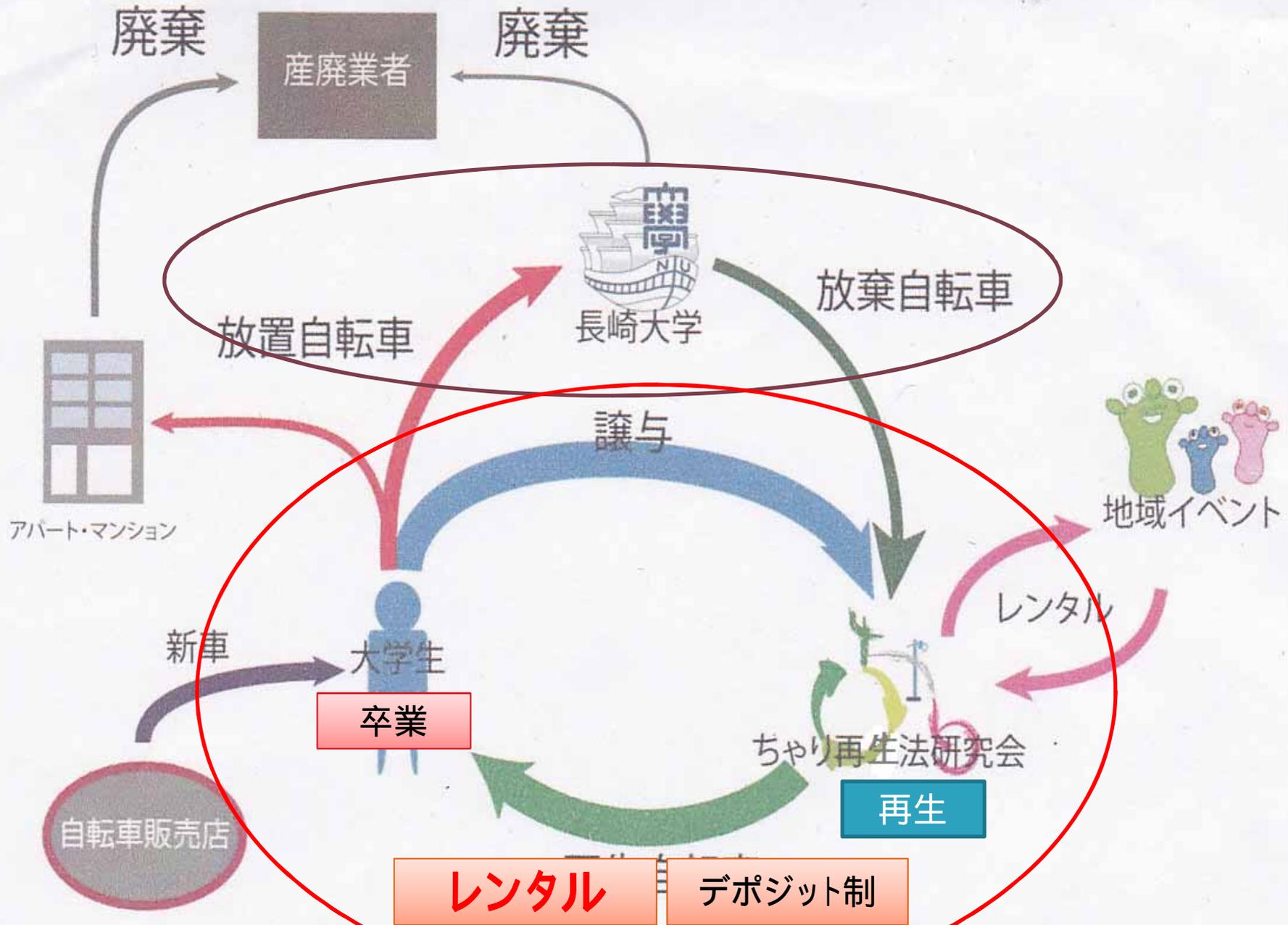
- ・ **修理できるところがない**

- ・ **一時的な交通手段にしかならず、**

盗難が多い

2、解決のためのシステムと運営

レンタルによる
自転車のリサイクルシステム



図：将来の自転車の循環

ビラで宣伝
研究室を回る



自転車を回収
修理、メンテナンス



レンタルで自転車を
貸し出し

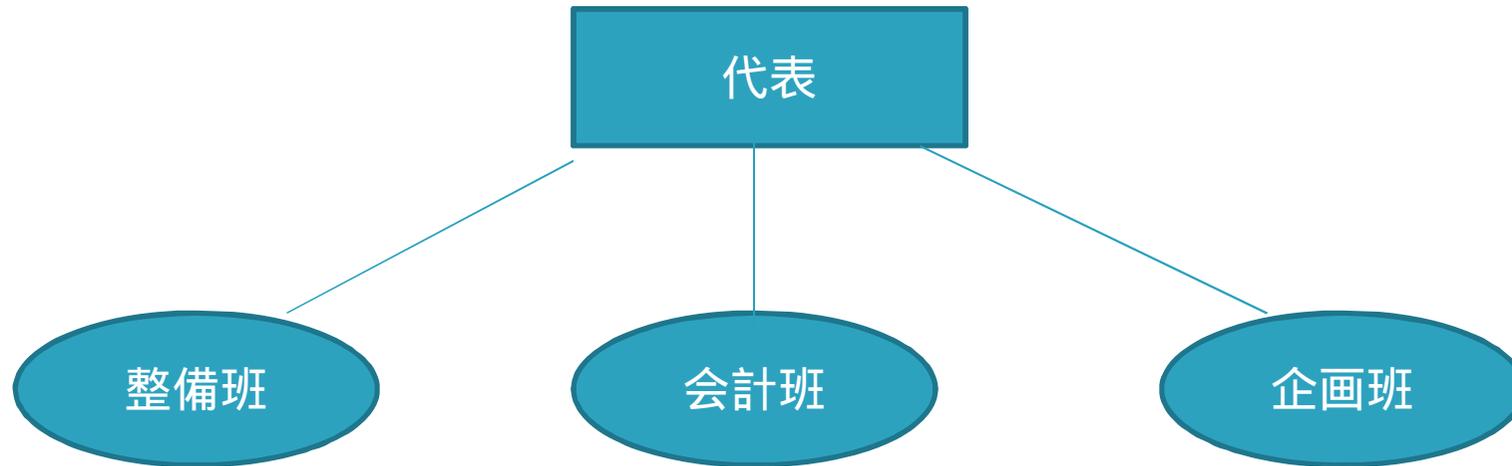


返却



2-1、運営のための組織

ちやり再生法研究会メンバー（19名）



回収

企画班 呼びかけ

修理

修理班 整備
企画班、会計班 情報整理 書類準備など

レンタル

修理班 メンテナンス
企画班 盗難防止 修理講習会等
会計班 修理費用等管理

返却

修理班 メンテナンス
企画班 情報抹消
会計班 デポジット料金返却



2-1 . システムの特徴

学生の需要

安全面の考慮

学生の需要

短期レンタル→ 3日、1週間からも随時レンタル

長期レンタル→ 年単位での貸し出し

盗難自転車が減る

安全面の考慮

- レンタル期間中のメンテナンスをいつでもできる

→大学生の事故防止

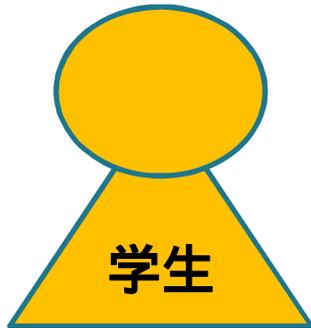
- 個人情報の管理は学生だけでは行わず、学生支援センターと協力して行う

→学校の自転車登録の利用促進



自転車の情報

持ち主の
名前



学生

自転車の情報

持ち主の
名前

住所等の個人
情報



学生支援センター

自転車の情報

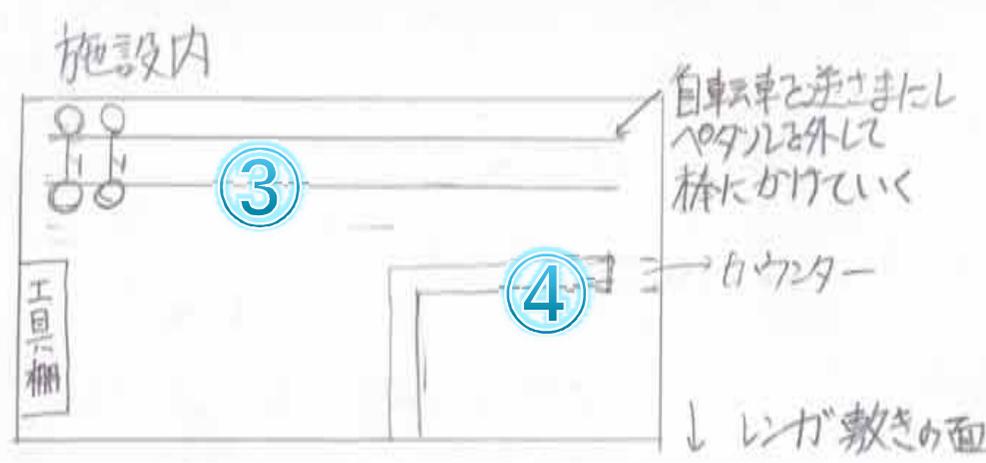
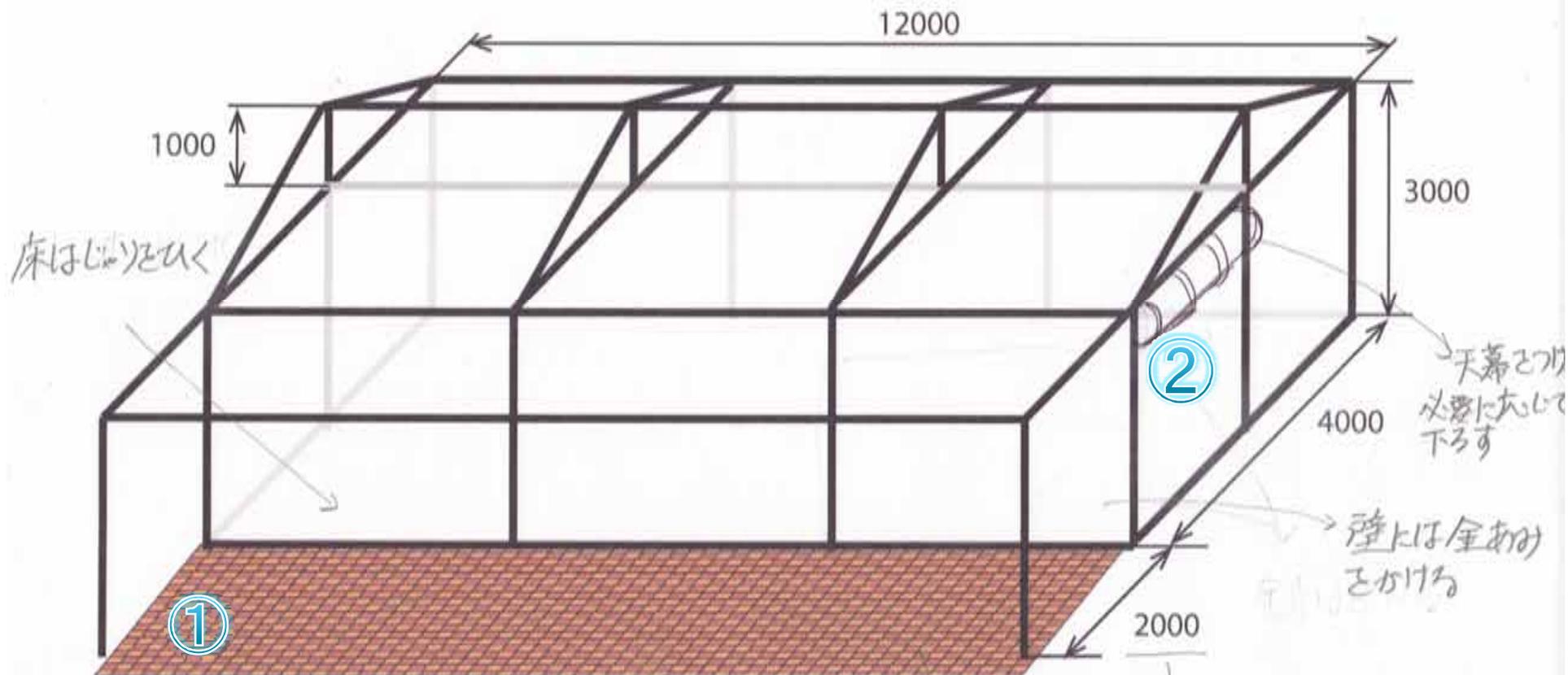
持ち主の
連絡先
名前

住所等の個人
情報

自転車登録

システム運営のための拠点

- レンタルの事務作業、受付
- 情報管理、工具保管場所
- 天候にかかわらず、修理できる場所の確保
- 自転車の保管場所



下にはレンガ
又は竹をひく

この部分に短期
レンタル用の自転車

施設の特徴

- パイプを組み立てる仮立ての状態
 - 状況に応じて規模の拡大、縮小
- 誰でも自由に出入りできる
 - 学生と地域の方の交流

私たちの夢は……

自転車リサイクルシステム の運営

運営のための拠点作り

長崎市を変えるきっかけ

物を大切にする学生の姿

放置自転車の有効利用について

ちやり再生法研究会

1、システム実行のための具体的な組織体系

班の名前	活動内容	卒業生への自転車回収の呼びかけ	メンテナンス	レンタル	返却
修理班		それぞれの自転車のカルテを作成する	修理された自転車の最終チェックを行う	自転車の分類を行い、貸し出しを行いやすくする。 自転車の引き渡し	自転車のメンテナンスに備えて、部品の整理、補充を行う
会計班		修理班、企画班の援助	修理班の手伝い	自転車の基本情報を書き込んだ学校の自転車登録用紙に住所、名前等、基本情報を書き込んでおき、自転車につけておく。 希望者が持ってきたら、書き込みをしてもらう。また、書類をコピーし一枚をレンタルした学生に管理。 書類は学生支援センターに提出	デポジット用のお金を準備する。
企画班		研究室をめぐったり、ビラを配ったりして自転車の回収を呼び掛ける 回収された自転車の情報整理 車体番号、車種等をデーターにまとめておく	自転車のレンタル希望受付 長期を先に受け付け、必要期間、希望車種を割り出す	会計班の手伝い	呼びかけのポスターを作成する レンタルした自転車の持ち主に、回収の案内をする。(各家にはがきの送付)

この組織体系を、短期レンタルや、常時の活動にも使っていきます。

短期レンタル

3日に1回、一斉貸し出し、返却を行ないます（3日、1週間、1か月）

あらかじめメールで予約をしてもらうか、部員が常時いる時間帯にきて予約をしてもらいます。今すぐ使いたいと言う時は、部員がいる時間帯におとづれてもらえばその時に借りる事もできます。

修理の受け付け

（レンタル自転車）施設の一角に置いておいてもらい、修理内容をメール、書類で知らせてもらい、個別に対応していきます。

長期レンタルに関しては部品の新品交換以外修理料金を頂きません。

（その他の自転車）自転車を指定した一角に置いてもらいます。

用意した書類に書き込んでもらい、かぎに番号札を付けた上で専用のボックスに投函してもらいます。

その日のうちにチェックをし、修理が完了次第連絡をします。

修理に2日以上かかる場合は、台車を貸し出すようにします

レンタル料一覧

(レンタル料) (デポジット料)

1年	3000円	1000円	3日	500円
2年	4000円	2000円	1週間	600円
3年	5000円	3000円	一か月	2000円
4年	6000円	4000円		

短期レンタルの場合は、全額デポジットで返却します。レンタル料というのは、デポジット料金も含めた料金です。自転車の使用料としては差し引き2000円を領収します。これは、1台の自転車を再生するのに必要な経費から考えました。使える部品を外して利用するので、部品をすべて新品にすることはありませんがタイヤのチューブやチェーンは安全面から新品を利用することが多くなると考えられます。そこで、自転車のチューブ、チェーンの料金にあわせて、故障の際の修理にかかる料金も含めています。

<自転車利用料金2000円の内訳>

タイヤ (チューブ)	698円
チェーン	800円
パンク修理 (一カ所)	231円
その他 油、やすり、研磨剤等	

i レンタル自転車盗難時の対応

ちやり再に連絡をしてもらい、新たな自転車を貸し出します。盗難された自転車の情報を公開し、警察に盗難届を提出します。回収時に盗難された自転車と同じものがないかをきちんと確認を行います。盗難された自転車は、自転車のサイクルシステムには戻さず、レンタルとしても使いません。警察に届け出をしたうえで解体し部品としてつかいます。盗難された場所を把握し、定期的がちやり再のメンバーで見回りを行うようにし再発をふせぎます。また、その場所を地図上にポイントし、マップを作成して注意をレンタル時に促します。

ii 個人情報の管理について

通学方法の登録の書類は学生支援センターに提出し、ちゃり再で保管はしません。また、研究室に案内を送ったり、学内にビラを配ったりすることで返却を呼び掛けます。自転車の情報をのみをのこし、毎年使います。自転車の持ち主に連絡を取りたいときには、学生支援センターから連絡先を教えてください。

iii 施設の防犯について

常時レンタルの自転車には鍵をかけ、貸し出しは一斉に時間帯を指定して行い、ちゃり再のメンバーがついておくようにします。レンタルの受け付けはメールフォーマーを利用します。相手には、自転車の番号をおくり、その番号を控えておいてもらいます。パンク修理用の工具に関しては、使用した人がノートに名前を必ず書けばいつでも使えるように開放します。その際の工具はすべてワイヤー等でつないでおき、工具が犯罪に使われないようにしておきます。小屋内にはちゃり再のメンバーなしでは立ち入れないように施錠をし、金品はおかず、工具に関しても工具棚に必ず施錠します。

iv 活動の発展

この施設を拠点に活動を発展させていきたいと考えています。現段階で実施していきたいと考えているのは以下の4点です

- 1、自転車の安全講習会
- 2、自転車の定期修理講習会
- 3、自転車を利用した地域のイベントへの参加
- 4、自転車再生活動を他の団体へも広げていく

今回の東日本大震災をうけて自転車の交通手段としての利便性が見直されてきています。そこで、自転車が必要とされている地域に自転車を送ったり、地域イベントへレンタル自転車で参加したりしたいと考えています。また、ちゃり再生法研究会はずっと佐賀大学の「ちゃりさが再生委員会」と交流を続けています。この佐賀大学と協力し自転車の再生活動を九州中に広め、互いにネットワークをつなぐための拠点としたいです

予算

レンガ (240×90×50mm) 85円×550 46,750
基礎工事 60,000

天幕 (2m×1m) 1000×60 60,000

フェンス

正面・裏面 36㎡
左右 24㎡ 430×96 32,688

骨組み 100,000

諸工事費 100,000

砂利 (1cc) 3,000 3,000×2 60,000

合計 405,438

学生の需要について

この施設をつくり、学内に自転車を広めることは学生にも需要があります。

260名へアンケート調査を行ったところ自転車をもっていない学生が大半であることがわかりました。何人かに話を聞いてみると、近くに自転車置き場がない、家まで持って帰るのが大変だからほしくても買えない等の学生の声が聞かれました。通学の主な交通手段としても、徒歩で通ってくる学生がほとんどです。しかし、自転車を通学ではなく、ちょっと友達と買い物に行く際や、急ぎの用事で家に帰らなければならなくなったとき、休日に自転車を使いたいと言う人は少なくありません自転車リサイクルシステムを運営することができれば、学生のニーズに効率よく答えることができると思われま

(社会調査論 I 保坂稔教授の配布資料より抜粋 環境科学部 260名)

自転車を持っていますか？

はい 39.3% いいえ 60.7%

通学の主な交通手段は何ですか

